

第3回 下野市障がい者福祉計画策定委員会 会議録

1 開催日時

平成26年12月2日(火) 午後1時30分～3時30分

2 開催場所

下野市保健福祉センター ゆうゆう館研修室

3 出席委員(委員17名)

毛呂委員、鈴木純委員、鱒淵委員、近藤委員、山中委員、菅沼委員、安田委員、朝川委員、高木委員、高井委員、渡邊委員、鈴木智委員、高山委員、篠崎委員、神村委員、大越委員
(欠席)

鈴木康委員、木村委員、萩原委員、本田委員
(事務局)

小口社会福祉部長、篠崎社会福祉課長、臼井課長補佐、間板副主幹、増淵主査、桑島主査、菊池主事
(傍聴者)なし

4 次第

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議題

(1) 第2回下野市障がい者福祉計画策定委員会議事録に関する確認事項について

(2) 第4期下野市障がい者福祉計画案について

(3) 今後のスケジュールについて

4 閉会

5 資料

1 次第

2 第4期下野市障がい者福祉計画案

要点記録

[この会議録は要点記録であり、すべての発言が記載させているものではありません。]

○開会

課長から開会宣言

○委員長あいさつ

高井委員長よりあいさつ

続いて本日、第3回策定委員会会議録の署名人を指名させていただきます。渡辺委員、高木委

員お願いいたします。

○議事（要旨）

（１） 第２回下野市障がい者福祉計画策定委員会議事録に関する確認事項について

（事務局）

事前配布の第２回下野市障がい者福祉計画策定委員会議事録について説明した。

（高井委員長）

確認事項についてよろしいでしょうか。

（全委員）

異議なし。

（高井委員長）

会議終了後、署名をお願いいたします。

（２） 第４期下野市障がい者福祉計画案について

（事務局）

資料２により説明が行われた。

（高井委員長）

ご意見ご質問等があればお願いいたします。

（神村委員）

４１ページの計画の基本方針のスローガンの“障がいのある人もない人もともに生きる「共生のまちしもつけ」”は、とてもいい表現だと思うので、ここだけでなく表紙等にも使ったらどうでしょうか。また、もっと目立つようにしてもらいたいと思います。

（事務局）

“障がいのある人もない人もともに生きる「共生のまちしもつけ」”はスローガンのサブ的な表現であるため、表紙にのせられるかどうか、再度事務局でもちかえって検討したいと思います。また、表紙のさし絵等につきまして、第１期計画から描いてもらっている方に原稿を依頼中です。これまでのイラストは女の子が多いので、男女共同参画の視点から第４期計画では、障がい児・者施設通所者の作品等も入れられたらと考えております。

（鈴木委員）

２０ページの団体ヒアリングの調査団体について、障がい者支援団体と支援機関の違いについて教えてください。

（事務局）

障がい者支援団体は、障がい者の保護者の会及び当事者の会であり、支援機関は障がい者の通所施設及び支援団体としています。

（鱒淵委員）

第２章の下野市を取り巻く現状についてですが、他市と比べて下野市としての特徴があれば、その旨を記述するのはどうでしょうか。

（事務局）

栃木県の統計と照らし合わせたところ、県とほぼ同様の傾向であり、特に下野市としての特徴は見られませんでした。県と同様の傾向であるということを追加で記述いたします。

(鱒淵委員)

第5章の就労支援の充実のところですが、(1)には就労移行支援事業所についても記入してはどうでしょうか。また、平成27年の障害者雇用納付金制度の改正で、労働者数が100人以上の事業所も2%の障がい者雇用をしなければならなくなる点についても記入してはどうでしょうか。さらに、一般就労のことのみならず、福祉的就労についても記入してはいかがでしょうか。

(委員長)

いい提案だと思いますが皆様いかがですか。それでは文言の追加をお願いいたします。他にご意見ご質問はありますか。

(渡辺委員)

58ページの療養介護について、現在4人の利用者がいるようですが、これまで利用がみられていないとの記述になってます。表との違いについて説明してください。

(事務局)

利用がありますので訂正させていただき、文面と表との整合性をとれるようにいたします。

(鱒淵委員)

70ページの地域活動支援センターですが、「すみれ」「なのはな」が就労継続支援B型事業所に移行することに至った経緯などもわかるような表現にしてはいかがでしょうか。

(事務局)

現在、「すみれ」「なのはな」については地域活動支援センターであります。今後、就労継続支援B型事業所として移行する予定ですので、追記させていただきたいと思います。

(鱒淵委員)

国分寺学園さんに確認したいのですが、共同生活援助についての設置を予定しているとお聞きしたのですが、今後、市の計画に盛り込む必要性についてはいかがでしょうか。

(山中委員)

最大定員20名のグループホームを作るという計画が始まっておりますが、障がい児施設の加齢児の地域移行事業や施設の就労可能な子どもたちの居住の場としての役割と考えております。まだ、現時点では市の障がい計画に盛り込むことはむずかしいと考えております。

(鱒淵委員)

日中活動については、計画に盛り込まなくてよいのでしょうか。

(山中委員)

日中活動については、すでに国分寺学園の方で40名の生活介護を行っておりますので、それ以外に日中活動の場を作る予定はございません。

(事務局)

障害児入所施設は県の措置であり、加齢児についても、保護者の居住地の市町が支給決定を行いますので、下野市からの入所者分の1名分よいと考えています。

(高井委員長)

他に意見はありませんでしょうか。よろしいでしょうか。いろいろな意見をいただきありがとうございました。それでは計画素案について承認される方は、挙手願います。

(高井委員長)

全員賛成ということで承認されました。

(3) 今後のスケジュールについて

(事務局)

平成27年2月からパブリックコメントを予定しております。パブリックコメント後、第4回策定委員会を予定しております。

○閉会

議事録署名人

印

議事録署名人

印